

Fuji Champion Race Series Round 2

2021.6.5 SAT - 6 SUN

FCR-Vitz
Round 2



第2戦を迎えたFCR-Vitz。前日は走行が中止となるほどの大雨だったが、走行開始時には路面が乾きドライコンディションにて行われた予選でのポールポジションは、開幕戦優勝の#44 N愛知K-oneプロμVitz 國枝惣一郎 2'18.922。フロントローには#40 TRT豊田自動織機Vitz 堀内秀也 2'19.326。3番手には開幕戦2位の#210 NITO CAR'S VITZ 仁藤祐介の順となった。決勝ではスタート直後の1コーナーで数台が絡むアクシデントが発生し、ポールスタートの#44 國枝も巻き込まれて順位を下げてしまう。マシン排除のためにSCが導入され3周が終えたところでリスタートがきられる。その時点でトップにたっていたのが#40 堀内、その後ろには5番手グリッドから追いつけてきた#713 白井家お父さんVitz 白井博が僅差で付くが8周の決勝は#40 堀内、#713白井、#7 R&TLOVCA-EDヴィッツ 鈴木健太の順でチェッカーとなった。激戦を制した#40 堀内だったが、再車検でまさかの失格。優勝は#713白井といった結果になった。残すはあと1戦、シリーズチャンピオンをかけたポイント争いは、#713白井が一歩リードした形で迎えることになった。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト FCR-Vitz

Rank No.	Name
1	713 白井 博
2	68 三浦 誠
3	7 鈴木 陵太
4	333 浅見 大志
5	639 水野 泰平
6	48 高木 幹成

TOYOTA GAZOO Racing
Yaris Cup
East Japan Series
West Japan Series
Round 1



いよいよ開幕戦を迎えたTOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup。東日本シリーズ、西日本シリーズの第1戦として開催された。エントリー台数は91台となっており、人気カテゴリーになりそうな予感だ。

前日までの雨によりウエットコンディションの中でA・B組に分けて行われた予選でのポールポジションはB組トップの#61 PAK☆SPEC7 Yaris 松本康平 2'17.779。フロントローにはインサイドグリッドA組トップの#62 N群馬GスパイスFKμYaris 松原亮二 2'19.555となった。決勝グリッドに全車が整列するころにはまだ曇りながらも合間から太陽が覗き路面は完全にドライコンディションとなり決勝に出られる54台はスタートではみごとなまでに全車綺麗な隊列を組んでTGRコーナーに消えてゆく。2周目までは#61松本がトップを守ったものの、3周目には予選4番手スタートの#38 N中部GRGミッドレスYarisuの神谷裕幸がトップに。上位集団がコンマ差の戦いの中を予選11番手からジワジワと順位を上げてきた#99 KTG YIC京都WMYaris大島和也が6周目には2番手まで上がってきた。ラストラップ上位6台が各所で接戦の中、0.1秒差で最初にチェッカーを受けたのは#99 大島だった。2位には#38神谷、3位に#61松本という結果となった。CVTクラスは#20 Tモビリティ神奈川Yaris CVTの乙津竜馬が総合でも16番手というダントツの速さで優勝した。優勝ドライバーのコメント#99 大島「スタート前にここ(11番グリッド)から優勝出来たら恰好いいねと言っていたのが本当になりました！レースの流れが全部自分たちの方向に進んでいったようです」#20 乙津「丁寧に走らせました。これでCVTクラスももっと盛り上がってほしいですね」



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Yaris Cup

Rank No.	Name
1	99 大島 和也
2	38 神谷 裕幸
3	61 松本 康平
4	62 松原 亮二
5	34 渡辺 圭介
6	930 咲川 めり



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Yaris Cup CVT

Rank No.	Name
1	20 乙津 竜馬
2	36 飯田 裕
3	13 近藤 希望
4	48 荒川 美恵子
5	518 河島 裕樹

86&BRZ FUJI 86BRZ Challenge Cup Round 2



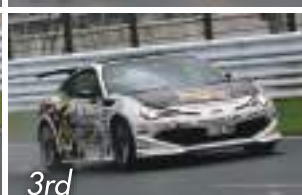
第2戦となったこのレース、予選の結果はポールポジションを獲得したのは、チャレンジカップJP-2R #8 パワークラフト BLITZ86 古田聡 2'00.144。JP-2Sクラストップが総合3番手の#750 ケイズレーシングBRZ 鍛冶田昇 2'01.209。86&BRZクラスのトップは総合7番手の#312 埼玉自動車大学校MS86 松本晴彦 2'03.322。2番手には総合8番手で#54 86Racer's田代号 田代良二 2'03.589という順番に決まった。予選はドライコンディションの中で行われたが、決勝開始時には雨が落ちてきてウェット路面でのスタートとなった。好スタートを魅せオープニングラップを制したのは総合2番手の#55 AUTOFACTORY86 たしろじゅん。その背後には#312 松本が迫ってきている。ストレートスピードが伸びるChallenge

Cupのマシンと、コーナリングが速い86&BRZクラスのマシンとの大バトルが続き、7周目には#312 松本が総合トップに立つ。その後も最終ラップにファステストを更新するほどの勢いで10周の第2戦は#312 松本が総合優勝。レース後#312 松本は「ウェットは練習中もマシンとの調子が良かったです。たしろさんにはストレートでは追いつけないのがわかっていたので、そこ以外で勝負だと思っていました」JP-2R 55たしろ「松本さんに遊んでいただきました。コーナーではかなわないことがわかっていたので抜かれたからはポジションをキープでした」JP-2S #750 鍛冶田「前のマシンについていくのが精一杯でした」と話している



RESULT リザルト 86&BRZ

Rank No.	Name
1	312 松本 晴彦
2	53 森田 幸二郎
3	54 田代 良二
4	57 土山 哲史
5	77 服部 文雄



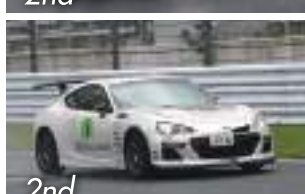
RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 2R

Rank No.	Name
1	55 たしろ じゅん
2	8 古田 聡
3	99 小野田 貴敏



RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 2S

Rank No.	Name
1	750 鍛冶田 昇
2	7 咲川 めり
3	33 関 篤人
4	41 池本 繁弘



RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 3S

Rank No.	Name
1	76 長 和樹
2	1 木幡 修一郎
3	50 五十嵐剛木



RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 4S

Rank No.	Name
1	904 青柳 貴明

FCR-VITA Round 1



開幕戦を迎えた今シーズンのFCR-Vita、まず土曜日朝の予選はウェットコンディションの中で行われ、トップタイムでポールポジションを獲得したのは#2 ワコーズEDニルズ VITA イノウエケイイチの2'01.752。フロントローには#47 KeePer Vita 徳升広平 2'01.859。3番グリッドには#21 オートルックVITA-01 いむらせいじ 2'02.348という順になった。雨も上がり、路面も乾いてくる状況の中で決勝がスタートした。ポールスタートの#2 イノウエが痛恨のブレーキミス、TGRコーナーで4番手に下がってしまう。中段グループではコカ・コーラコーナーで数台のアクシデント。オープニングラップをトップに戻ってきたのは#47 徳升、後ろには予選4番手だった

#122 オートルックVITA-01 新井薫。その後トップの#47徳升が3周目にはファステストラップをたたき出し速いペースで周回を重ねてゆくが、終盤になって#122 新井の猛追。8周目のストレートで2台並んでコントロールラインを駆け抜け、ここで#122新井が前に出る。さらに#21いむらも#47徳升とバトルを繰り広げ、10週の決勝は#122新井、#21いむら、#47徳升の順でチェッカーとなった。レース後#122新井は「スタートは上手くいきました。まさかこの結果になるとは自分では思っていませんでした。チーム監督の指導と良いチーム、メカニックやスタッフのおかげで優勝できました」と語った。



RESULT リザルト FCR-VITA

Rank No.	Name
1	122 新井 薫
2	21 いむらせいじ
3	47 徳升 広平
4	2 イノウエケイイチ
5	87 山本 龍
6	610 佐藤 元春

KYOJO CUP Round 1



新たなドライバーも加わって、今年も激戦が予想される KYOJO CUP開幕戦。予選でトップタイムを出したのは#34 YGF VITA01 下野璃央 2'15.127。フロントローに並ぶのは#18 ORC ARUGOS VITA 辻本始温 2'15.626となった。日曜日の最終レースとなる決勝スタート時には路面もほぼ乾いてドライコンディションの中、スタートがきられた。オープニングラップでは予選の順位変わらずに綺麗な隊列のままTGRコーナーに各マシンが消えていく。2周目のストレートで並びかけたトップ2台はTGRコーナーで#18 辻本がトップを奪う。その後もトップ4台はコンマ差のバトルを各コー

ナーで展開するが、#18辻本が最後まで抑えきって最初にチェッカーを受けた。2位には#36 KNC VITA 荻原友美、3位に#87 おさきにどうぞ☆VITA 山本龍という結果になった。レース後の#18 辻本のコメント「小倉クラッチさん、チームオーナーさん、スタッフの皆様、そして両親に優勝を届けられて本当に嬉しいです！昨シーズンの最終戦がとても悔しくて、気持ちも弱いところがあるとわかってきたのでシーズンオフには心も体もいろいろトレーニングを重ねてここまで来ました。レース中もここは絶対に自分は大丈夫と強い気持ちを持って走り切りました」と語った。



RESULT リザルト KYOJO CUP

Rank No.	Name
1	18 辻本 始温
2	36 荻原 友美
3	87 山本 龍
4	86 猪爪 杏奈
5	610 RINA ITO
6	37 翁長 実希

Inter Proto Series Round 1-2 Gentleman Driver



インタープロトシリーズ開幕戦は、最初の決勝はジェントルマンクラス。今シーズンはSupraクラスが新設された、新たなドライバー／チームの参戦もあり全19台での開催となった。土曜日の予選のベストタイムで第1レースのグリッドが決まり、セカンドタイムで第2レースのグリッドが決まるというレギュレーション。第1レースのポールに決まったのはIP E#44 NAVUL 山口達雄 2'00.582。フロントローに並ぶのは#32 NETZ NOVEL MIE 永井秀貴 2'00.750。IP Gクラストップは#7 CARGUY IPS 山崎裕介で2'02.312。SUPRAトップは#885 林 テレンブSHADERACING GR SUPRA GT4 HIRO HAYASHIで2'02.509。CCS-Rでは#51 P.MU RACING CCS-R ト部治久で2'03.932。土曜日に行われた第1レース決勝ではトップを守る#44山口の後ろで#32永井と#55人馬一体ドライビングアカデミー 寺川和紘の激しい2番手争いが続く、その隙に徐々に差を広める#44山口という展開になり、12週の決勝は#44山口が逃げ切って優勝した。IP Gクラスでは#96 岡山トヨベツト K-tunes 末長一範が優勝。SUPRAは、#885 HIRO HAYASHI、CCS-Rは#51 ト部が優勝した。レース後の優勝ドライバーは、IP E #44山口「スタート直後には後ろに永井さんがいたのでかなり気にしていましたが、100R

までに離れたのでそこからは落ち着いて走れました」IP G#96 末長「予選が上手くいかなかったので、決勝ではペース配分を大事に走ろうと思っていました、今シーズンはチャンピオンを狙いたいです」SUPRA #885 HIRO HAYASHI「S耐久でもスーブラを走らせていますがバランスの良いところをなかなか見つけられなくてセッティングが難しかったです」CCS-R #51 ト部「今回はライバルが来なかったから助かった！レースはインタープロトとも絡めて楽しかったです」と語った。

翌日第2レースは、日曜日最初の決勝。グリッドでは少しかけ雨が落ちてくる天候だが路面はウェットコンディションの中でスタートが切られる。直後のTGRコーナーで#44山口が痛恨のスピン。代わってトップに立ったのは#55寺川、後ろには#32 永井といった展開で周回を重ね、このまま最後まで走り切れるのか？と思われていた終盤になって11周目に#55寺川がTGRコーナーでスピン、順位を下げてしまう。ラストラップはトップ4台の激しい戦いで目まぐるしく順位が代わる中、12週の決勝を0.2秒差のトップでコントロールラインを通過したのは3年ぶりに復帰、8番手グリッドから怒涛の追い上げを魅せた#19 GARDEN CLINIC RT 今橋彩佳だった。IP Gクラスは#7山崎が逃げ切って優勝。各クラス優勝ドライバーは、IP E #19 今橋「正直、トップに立てるとは思ってもいなかったのが最高の気分です！昨日のレースは守りに入っていましたが、今日は攻めることができました」IP G #7 山崎「昨日のマシントラブルも改善されて克服できました」JGR SUPRA #885 HIRO HAYASHI「昨日からいろいろな課題も見つかったのですが、クリアしながら楽しく走りました」CCS-R #51 ト部「自分の仕事はエンジニアさんにマシンの様子をきちんと伝えることだと思い淡々と走りました。レースは楽しかったです」と語った。

Round 1



RESULT リザルト IPS-E

Rank	No.	Name
1	44	山口 達雄
2	32	永井 秀貴
3	55	寺川 和紘
4	19	今橋 彩佳
5	3	FLYING RAT
6	37	大蔵 峰樹



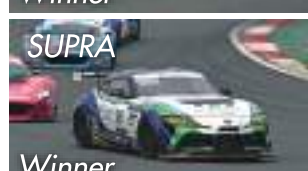
RESULT リザルト IPS-G

Rank	No.	Name
1	96	末長 一範
2	7	山崎 裕介
3	16	渡邊 久和
4	8	勝又 隆二
5	88	八木 常治
6	25	高橋 照夫



RESULT リザルト CCS-R

Rank	No.	Name
1	51	ト部 治久
2	15	Yoshikazu Sugaya
3	10	木村 真弓
4	87	正田 亮



RESULT リザルト SUPRA

Rank	No.	Name
1	885	HIRO HAYASHI
2	45	横井 克一郎

Round 2



RESULT リザルト IPS-E

Rank	No.	Name
1	19	今橋 彩佳
2	32	永井 秀貴
3	37	大蔵 峰樹
4	44	山口 達雄
5	55	寺川 和紘
6	3	FLYING RAT



RESULT リザルト IPS-G

Rank	No.	Name
1	7	山崎 裕介
2	16	渡邊 久和
3	96	末長 一範
4	8	勝又 隆二
5	88	八木 常治



RESULT リザルト CCS-R

Rank	No.	Name
1	51	ト部 治久
2	15	Yoshikazu Sugaya
3	10	木村 真弓
4	87	正田 亮



RESULT リザルト SUPRA

Rank	No.	Name
1	885	HIRO HAYASHI
2	45	横井 克一郎

Inter Proto Series
ROUND 1-2
Professional Driver



インタープロトシリーズプロクラス開幕戦、トップドライバー達のスプリントガチンコバトルが今シーズンも始まった。10周(20分間)のレースを短いインターバルを挟んで2ヒートで行うこのカテゴリー。Round1のスターティンググリッドを決める予選では#44 NAVUL 山下健太が1'46.198のトップタイムでポールポジションを決める。フロントローには#37 キーパー号 福住仁嶺 1'46.743。SUPRAクラスでは#38 P.MU RACING SUPRA 堤優威が1'47.431でトップタイムを記録したが、#38堤は章典外での参加のため、ポールポジションは#885 林テレンブSHADERACING GR SUPRA GT4 平中克幸となった。CCS-Rは#10 NTP CCS-R 阪口良平が1'51.613でトップからのスタート。Round1のスターティンググリッドに全車がついたところには雨はあがり天気は回復傾向との予報。ここでタイヤをウェットかドライにするかで各チームの戦略が分かれた。予定時刻通りスタートが切れ、#44山下がトップで1コーナーに、オープニングラップで数台のマシンがコースオフやスピンをしているのを見ると、路面はまだ完全にウェット状態の模様。トップを快走する#44山下の後ろでは2番手争いが熾烈になり5周目には3番グリッドスタートの#16 ララパルーザ Ronnie QUINTARELLIが2番手に、さらに9周目には6番グリッドから徐々にポジションアップしてきた#32 NETZ NOVEL MIE 坪井翔が2番手となり、10週の決勝は#44山下、#32 坪井、#16 Ronnieの順でチェッカーとなった。上位3台ともウェットタイヤを選



択しており、Round1ではウェットタイヤ勢が上位を占めた。SUPRAは#45 NTP SUPRA 片岡龍也、CCS-Rは#10阪口が優勝。
続くRound2ではポールの#44山下がドライタイヤに替えるためにピットからのスタート、まだかなり路面は濡れているのかのように見える。スタート直後のオープニングラップでは7番グリッドからトップに立ったのは#37 福住、さらに4周目には10番グリッドから追い上げてきた#55 人馬一体ドライビングアカデミー 関口雄飛が2番手に。7周目に3番手に上がってきたのが12番手スタートだった#7 CARGUY IPS 野尻智紀と3台ともRound2をドライタイヤでスタートしており、その作戦が正解だったようだ。見どころ満載の10周はその順位でチェッカーとなった。SUPRAは#885 平中、CCS-Rは#87 NTP CCS-R 松井孝充が優勝した。レース後#37福住は「シリーズに向けて幸先の良いスタートとなりましたが、タイム的には山下・藤波さんらも速いので、この天候波乱の中を切り抜けたのはとても良かったです」と話し、CCS-R #87松井は「今回はいつもより一層いろいろな発見が出来ました。チームスタッフのおかげです」と語った。

Round 1



RESULT リザルト IPS

Rank No.	Name
1	44 山下 健太
2	32 坪井 翔
3	16 Ronnie QUINTARELLI
4	19 藤波 清斗
5	96 中山 雄一
6	8 大滝 拓也



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	10 阪口 良平
2	87 松井 孝充
3	51 石浦 宏明
4	15 小河 諒



RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	45 片岡 龍也
2	885 平中 克幸

Round 2



RESULT リザルト IPS

Rank No.	Name
1	37 福住 仁嶺
2	55 関口 雄飛
3	7 野尻 智紀
4	88 佐々木 大樹
5	25 三浦 愛
6	3 阪口 晴南



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	87 松井 孝充
2	10 阪口 良平
3	15 小河 諒
4	51 石浦 宏明



RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	885 平中 克幸
2	45 片岡 龍也